

# 29年3月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 3月1日～ 29年3月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
3月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
入荷動向	国産材製材品	△ 7.1	14.3	7.1
	外材製材品	△ 8.3	8.3	△ 8.3
	その他	△ 10.0	10.0	△ 10.0
販売動向	国産材製材品	0.0	14.3	△ 14.3
	外材製材品	△ 14.3	7.1	△ 7.1
	その他	0.0	10.0	0.0
在庫動向	国産材製材品	17.9	14.3	7.1
	外材製材品	0.0	7.1	△ 7.1
	その他	0.0	0.0	0.0

・国産材、外材製材品及びその他の入荷は、3月は減少、4月は増加、5月は外材製材品及びその他が減少。

・国産材、外材製材品及びその他の販売は、概して3月の横ばいが、4月は増加、5月は減少。

・国産材、外材製材品及びその他の在庫状況は、国産材製材品は3ヵ月連続で増加、外材製材品は3月は横ばい、4月はやや増加、5月はやや減少。その他は3ヵ月連続して横ばい。

### (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
スギ	柱角 KD10.5×3	14.3	14.3	0.0
	柱角 KD12×3	△ 7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	10.0	10.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	7.1	0.0	0.0
	間柱	0.0	7.1	0.0
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	7.1	14.3	14.3
	平割	7.1	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	14.3	7.1	0.0
	柱角 KD12×3	△ 7.1	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	14.3	7.1	0.0
	土台角 12×4	0.0	7.1	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	△ 8.3
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	8.3	8.3	0.0	
米マツ割物	20.0	30.0	20.0	
北洋エゾマツタルキ	12.5	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	33.3	8.3	8.3	

・スギ製材品の出荷価格は、柱角KD10.5×3、通し柱12×6及びヌキはやや強含み、その他は全般的に横ばい。

・ヒノキ製材品の出荷価格は、柱角KD10.5×3及び土台角10.5×4はやや強含み。他は総じて保合。

・米マツ割物及び北洋アカマツタルキはやや強含み。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産材、外材共に入荷順調。販売は、スギ材防音工事少なくやや減少。アカマツ、WW共にやや減少。2月売上げ減少で在庫が10%増加(関東)。
- ・入荷は回復傾向。1、2月に比べると販売は少し回復(中部)。
- ・春需を見越した動きは今のところ見られない。入荷量が多くなるのは4月以降だろう。国産材の販売量は増えてきたが、単価は上がっていない。外材は販売量が減少し、販売価格が伸び悩んでいる。在庫は現状維持(中部)。
- ・プレカット工場の受注が徐々に減少、その影響で市場入荷が増えると思われる。国産材の販売量が減少すると思われる。ロシアアカマツが出材不足(大阪)。
- ・品薄感のあるスギ製品のみ価格に動きがある(九州)。

(価格動向)

- ・売先により単価変動 スギ柱角 (KD10.5cm) 58,000円/m<sup>3</sup>、(KD12.0cm) 60,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角 (東北材) 40,000円/m<sup>3</sup>、母屋角 (東北材) (二等) 30,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ (東北材) 45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱 (KD) 60,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板 (東北グリーン材) 束2,800円、(KD) 束4,800円、スギヌキ (東北) 40,000円/束、秋田材50,000円/束 スギ平割 (プレーナー) 450000円/m<sup>3</sup>、同 (ラフ) 43,000/m<sup>3</sup>、 ヒノキ柱角 (KD)・土台角10.5cm、12.5cm 80,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 KD 65,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD 65,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ (アSEMBル単価) (S) 72,000円/m<sup>3</sup>、(P) 60,000円/m<sup>3</sup>、(バンドル単価) (S) 67,000円/m<sup>3</sup>、(P) 57,000円/m<sup>3</sup>(関東)。
- ・スギは産地事情はあるが販売単価上げには苦勞する。ヒノキは品目により品薄感があったが、4月以降落ち着くと見られる(中部)。
- ・スギ製材品の価格変動は今のところ見られない。造作類の動きも価格的に変動なし。ヒノキは構造材は現状維持、6mの通し柱の需要は減少の一途で価格は下げ基調。米マツは販売が伸びず現状維持。北洋エゾマツタルキは3月は上昇したが、4月以降は横ばいの見通し(中部)。
- ・米マツ平角、割物及び北洋アカマツタルキは円安相場のため輸入単価が上昇(大阪)。